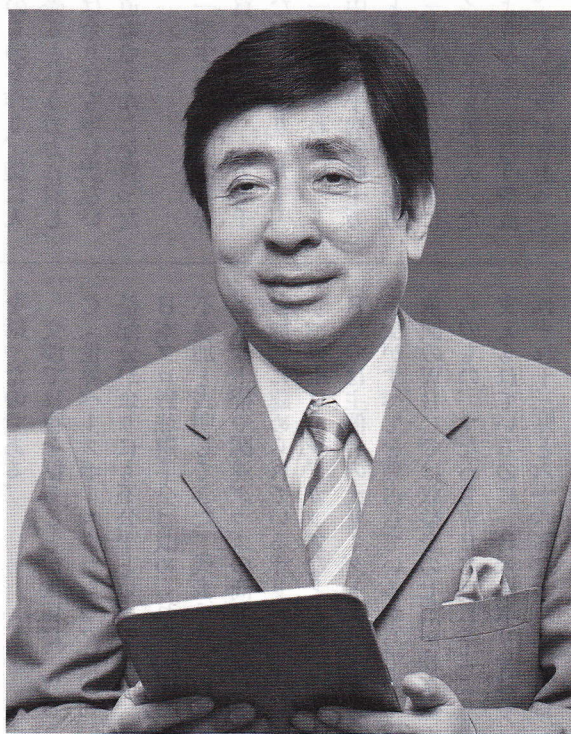


手嶋龍一さん

手嶋龍一さんといえば、NHKワシントン支局長の時代、ブッシュ対ゴアの大統領選の朝、「選挙のプロも誰ひとり優秀を口にしなくなった」と髪の毛一本の接戦を言い当てたレポートを思い出す。NHKから独立後は、世界に張り巡らした情報網を駆使して、ノンフィクションから小説まで多くの著作を世に送ってきた。また慶応大学大学院教授としてインテリジェンス論を講義している。インテリジェンスとは、膨大な一般情報の海からきらりと光る原石を見つ

タブレットで松平定知の「蝉しぐれ」



取材旅行ではタブレット端末を愛用する

け出し、指導者に揺るぎない決断を促す選り抜かれた情報を用いる。「フクシマ原発事故を経験した日本は今こそインテリジェンス能力を磨かなければ」と手嶋さんは語る。一年のうち三カ月は欧米や東アジアなど取材の旅に出かける。「命にも等しい情報源をみだりにサイバー・スペースにさらすわけにはいきません。貴重な情報を手に入れるには、これはという人に会って話を聞く他に王道はありません」穏やかな語り口の一方、孤独でストイックなインテリジェン

スマスターの面影を漂わせる。相手の懐にすつと入りこむためなのか、「いつも眠そうな眼をしているといわれます」とユーモアを忘れない。手嶋さんは取材旅行ではタブレット端末を愛用している。「特殊な利用法と笑われるのですが」と前置きし、披露してくれたのは、タブレットで小説の朗読を聴く愉しみ。NHKアナウンサーだった松平定知さんが朗読する藤沢周平の『蝉しぐれ』がお気に入りだ。「松平さん朗読の『蝉しぐれ』は、ダウンロードすると十二時



通信速度と映像美が際立ち、新しい操作感覚を備えた防水スマートフォン「ARROWS Z」

Designing The Future
KDDI

間の大作。揺れる飛行機や列車でもタブレットなら快適です。松平さんが精魂こめて読み聞かせる藤沢作品は天下一品。同時に文体をじっくり味わいたときは、電子ブックを開きます。端正な文章をタブレットの大きな文字で追っていく。一年間、無人島で暮らすことになっても、松平さん朗読の『蝉しぐれ』さえあれば退屈しない。奇跡のような組み合わせ。原作者であるジョン・ル・カレが朗読する『寒い国から帰ってきたスパイ』もお薦め。ジャック・ロンドンの『火を熾す』も鋼を思わせる見事な文体で朗読向きです」
眼下にマンハッタンの摩天楼を眺めつつ、『蝉しぐれ』を聴き終えるとタブレットを閉じ、空港で情報源と待ち合わせる。極上のインテリジェンスを求めて。